

保育闘争委員会ニュース

公的保育を守り拡充させよう

2016年
2月10日(水)
第137号

発行 = 東京自治労連保育闘争委員会 Tel.03-5940-7951 Fax.03-5940-7957 honbu@tokyo-jichiroren.org

東京自治労連保育部会総会、大きな成功 満杯の122人で学習・交流・意志統一

16年1月24日(日) 東京自治労連ラパスホールにおいて、9単組・1市・公務公共一般、本部その他含め122人で席が足りなくなるほどの参加者でラパスホールが満杯になりました。

品川の木下さん、公共一般の池上さんの議長で進行、部会長の挨拶から始まりました。

<遠藤部会長あいさつ>

9月19日に戦争法案が強行されてしまいました。とても悔しい思いです。私たちは、保育士として「誰の子どもも殺さない、殺させない」「戦場に送らない」為に、参議院選挙が重要になってきます。戦争法反対の1票を投じましょう。

安倍総理は「同一労働同一賃金」の発言をしました。「非正規も同一労働・同一賃金にしなければならない」と言っていますが、保育の現状を見る限り、その言葉に疑いを持ちます。保育士不足が解消され、保育士全体の賃金の底上げを望みます。

新制度が施行され、各地域で民営化が進められています。東京の保育部会は、皆さんの力で運動していきたいと思えます。

<来賓あいさつ>

◎東京自治労連・荻原執行委員長

戦争法廃止の運動に保育部会の皆さんが力を発揮していることの敬意を表します。

「子ども・子育て支援新制度」の制度化のもとで、住民とともに宣伝、都議会に働きかけ、行政を動かしてきました。全国の仲間とともに連携を強め、よりよい運動をしてほしい。自治労連をけん引しているのは保育部会です。連続講座など先進的な運動も注目されています。大きな期待をします。

公立園つぶしが進んでいます。墨田では、公立10園を残し、全園を子ども園にする動きがあります。品川でも提案されています。公的制度を守り抜くために、部会の団結を強め地域住民とともにより良い制度に変えていく運動を進めましょう。

◎福祉保育労東京地本本部・佐々木委員長

総会おめでとうございます。参加されている方に若い人が多いと思いました。民間園でも若い人が増え、入れ替わりが激しく退職者も多いです。そのために、保育の積み重ねができず難しさも出ています。

安倍政権は戦争法を成立させ、軍事費増強の予算をかけていることに危機感を感じます。新3本の矢をかかげ福祉予算をつけても、現場は人手不足で大変。民間はぎりぎりの予算で募集、初任給が15万円~12万円です。一人暮らしができる給料ではありません。保育の専門性を問いただす必要があります。

全国福祉保育労働組合、日本自治体労働組合総連合が、保育所に無資格者を拡大する「厚労省令の改正案」の撤回と、保育士確保の抜本的な措置を求める(共同声明)を発表しました。皆さんと一緒に運動をしていきたいと思えます。



<高橋副部長により、保育をめぐる情勢学習>

「国の情勢では、安倍政権の夢を紡ぐ子育て支援は、女性の労働力を確保して経済を成長させ、保育に参入する営利企業を設けさせるようにすること。日本が OECD 加盟国の中で、乳幼児にかかる予算は最低。せめて平均並みにしてほしい。

厚労省が保育の担い手確保に向けた緊急的な取り組みを策定。15年度の特例として容認した、朝夕の保育士配置の弾力化を来年度も継続する。幼稚園教諭及び小学校教諭等の活用。研修代替要員等の加配人員における保育士以外的人员配置の弾力化。自治体で反対の意見を挙げていくことが重要。

東京は全国でダントツの待機児童数。隠れ待機児童数の問題もあり、認可保育所の設置と保育士の処遇改善が待たなしの課題。株式会社立の保育施設が増加する中で、問題なのは保育の質の低下と保育士の処遇。営利を追求することで、人経費の削減につながり保育士の離職にもなってしまう。間違いなくブラック企業である。保育士不足が深刻になり、確保に向けた競争も出てくる。根底にある処遇が改善されない限り、この先も保育士不足は続く。これからの運動をどう進めるか、運動方針案につなげていく」と結びました。

<梅野事務局長が、活動経過と 2016 年度の運動方針案、中川副部長が、労働安全衛生活動の方針案を提案> (議案書参照)

<休憩をはさみ、質疑・討論>

各単組からの報告になります。報告の中で新たに民営化の提案が墨田、品川、国立、世田谷で出されました。欠員問題では、足立が 2 年連続、今年度は 29 名もの欠員でスタートし、派遣対応で補っている報告を受けました。板橋では新制度の開始により、未満児と要支援児の 11 時間保育が開始。しかし、臨時職員の配置で未だに正規が配置されず欠員状態が続いています。文京では、昨年予算人員要求で調理師 5 名の採用を勝ち取った報告がありました。江東では、企業型認証保育所が 11 月に廃園になり、緊急一時保育という形で、公立園で受け入れました。

また、保護者・地域との運動を根強く続けている単組の報告も多くありました。国立は、6 年前の民営化問題に比べると、保護者の勢いや考え方に温度差がある現状があるが、保護者とともに運動できる国立の良さを大事に民営化反対の運動を続けていきたいとのことでした。板橋は欠員問題について、職員の学習会や 9 か所で保護者との懇談を取り組んでいます。品川は全国合研の取り組みの中で、若い保育士が楽しい保育実践や保護者とともに育ちあう実践を共有できたと報告がありました。墨田では、「よりよい保育を@すみだ」準備会を立ち上げ、2 月に大規模な集会を開催します。その準備会には、若い保護者の参加もあり運動の広がりを見せています。

豊島、世田谷、足立では、超過勤務の運動を取り組んでいます。これは、保育全体の問題でもあります。世田谷、足立ではアンケートを取り組むなどの具体的な運動を展開しています。足立では職員の生の声が寄せられた、世田谷では、保育園の状況が少しずつ改善されてきているとの声が出ているとのことでした。

公務公共一般・保育ユニオンからは、『私たち非正規保育者です』の本を発行できた。全国合研での非正規保育者のシンポジウムを企画。参加費補助を組織化グッズとして活用。加入に結び付いた。正規保育士との連携や情報を共有しながら、組織髪つなげていく。

詳細は議案書参照。

<帖佐事務局次長が討論のまとめ>

・民営化では、国立、墨田、品川、世田谷、目黒から出されました。予算がないと言いながら、民営化されるに当たっては予算をつけている。



- ・欠員問題では、全国的に保育士不足。如何に現場が厳しいか。人材派遣は、保育現場では無理がある。欠員問題は当局の責任である。
- ・地域とのつながり、保護者とのつながりを大切にという単組が多い。こまめに伝えていくことが大切。組合サイドでも横のつながりを大事にしながら、公立の大切さを発信していく運動にしていく。
- ・連続講座で若い人が学習する中で来年につなげていく。
- ・労安活動では、「元気に働くためには」の視点で労安活動を進めていく。世田谷、足立のようにアンケート調査をする中で、数の実態を見せていくことが大事。
- ・保育園建設のための目黒の空き地探しのアイデアは楽しく参加でき、違った観点を感じる。
- ・公共一般の取り組みでは、同じ職場で働くものとして組織化の運動をしていきたい。
- ・役員交代をすることは大変。若い人が組合の取り組みに参加していけるように、保育部会としても力を結集して運動をしていきたい。

◎運動方針案（労安含む）の採決。拍手で承認されました。

◎遠藤部会長より、新役員選出の提案がありました。拍手で承認されました。

◎総会宣言案を読み上げ提案。拍手で承認されました。

◎深沢新部会長の音頭により、団結頑張り！で総会を終了しました。



退任する遠藤部会長、梅野事務局長。長い間大変お疲れ様でした。

【傘下の組織や保育関係者に配信・配布してください。】